



鶴見 久美子 議員

### 教育問題について

**問** 古河市教育委員会では、教育振興基本計画を策定し、教育の振興を図っていくとあるが、小中学校の教職員の過酷勤務について、現状を把握しているか伺う。また長時間勤務の状況の中、教職員の心身が損なわれ余裕がなくなり、児童生徒と向き合う時間が確保できないなどの葛藤が生じストレスを増加させてしまう。教職員の心のケアに対する取り組みについて伺う。

また中学校の部活動における、教職員の負担軽減をする意味で、外部指導者導入についての所見を伺う。

学年	学年数	部活動数	指導員数	指導員数	指導員数
小1	12	12	12	12	12
小2	12	12	12	12	12
小3	12	12	12	12	12
小4	12	12	12	12	12
小5	12	12	12	12	12
小6	12	12	12	12	12
中1	12	12	12	12	12
中2	12	12	12	12	12
中3	12	12	12	12	12
計	72	72	72	72	72

教員の1日当たりの学内勤務時間  
(出典：文部科学省)

**答(教育部長)** 長時間勤務の現状について、1カ月当たり100時間および2カ月前までの5カ月間で月平均80時間を超えた教職員等に対し、面接を勧奨しているが、実際に面接を希望する教職員はいなかった。

心のケアについては、個人面談や教職員の様子を観察、声かけをしている。また、予防的な

取り組みとして本年度からストレスチェックを実施する。

市内中学校の外部コーチの活用部活動数は16で、すべて運動部である。教職員の負担軽減の意味からも積極的に活用を推進していきたい。

### 成年後見制度について

**問** 昨年度開催された市民後見人養成講座について、本年度の取り組みと体制づくりについて伺う。

**答(健康福祉部長)** 市民後見人養成講座について、本年度は昨年度の講座終了者に対し、フォローアップ研修等を行い、市民後見人の継続的な育成、支援を行っていく。



高橋 秀彰 議員

### 学校教育における、いじめ、不登校対策について

**問** 県内外で、いじめが原因とされる事件があとを絶たないが、その多くは、子どもたちの小さなサインを見つけられず、問題が重大化してしまった状況である。いじめ、不登校防止への対応では、学年や学校全体がチームとして対応、対策にあたっていただきたい。

また、児童生徒の不登校の兆候や、隠れたいじめ被害を発見できる、アンケートQ-U※の活

用により、教員の日常的な観察や面接に加え、より客観的な判断ができ、いじめ、不登校の早期発見、早期対応、未然防止につながると考える。

市内小中学校における、今後のアンケートQ-Uの活用等について伺う。

**答(教育長)** Q-Uについては、本市でも小学校で7校、中学校2校で実施しており、児童生徒一人一人の理解に役立っている。例えば、子どもとの個別面談の資料として活用したり、学校生活への意欲と学級への満足度を把握し、学級経営に役立っているなど、有効に活用されている。

現在古河市で実施している学校においては、校長自ら分析をしている学校もある。その校長

を中心に、分析能力、Q-Uについての理解を広めていきたい。

学級経営上、あるいは児童生徒一人一人の理解という点で有効な方法だと思うので、古河市としても現場の効果をさらに検証し、今後実施を検討してまいりたい。



※  
Q-U(QUESTIONNAIRE-UTILITIES)  
…楽しい学校生活を送るためのアンケート